

関川の植物

関川の下流域

関川の下流は、温暖帯という気候帯に属しています。平野部は沖積低地で、川の流れによって運ばれてきた土砂が、長い間を経て、たまってできたところです。ここは、人間の手が加わっていなければ、トネリコやハンノキといった、広葉樹が生える、湿生林の成立するところです。しかし、現在では、水田耕作地として利用されているところがほとんどで、関川のまわりでは、市街地化が進み現在では湿性林を見ることはできません。

関川河川およびそのまわり

人間の手が加わっていなければ、シロヤナギなどの、ヤナギ類が生える林ができるところです。しかし、水ぎわは、都市型河川として整備されているところが多く、ヤナギは、中州や水ぎわに、丈の低い林が見られる程度です。

河口から荒川橋までと保倉川

関川の河口から荒川橋までと、支川の保倉川は、コンクリートで川岸がおおわれているために、河川敷のないところがあります。この地域には植物がほとんど生えていません。

荒川橋から上流の別所川合流地点

この地域の河原では、グラウンドなどに利用されているところのほかは、河川敷によく生えている、ヨシやオギの草地在広がっています。

中流部や櫛池川合流付近

この地域には、ヤマグワ、ニセアカシア、ケナシヤブデマリ、ヤナギ類、オニグルミが生えている、丈の低い林や、丈の少し高い林がわずかながら見られます。また、堤防の斜面は、定期的に草刈りが行われているため、丈の低い草地となっています。

関川の植物群落（いくつかの植物がまとまって生えている一つの地域）の成り立ちを、横断の模式図に表すと下図のようになります。

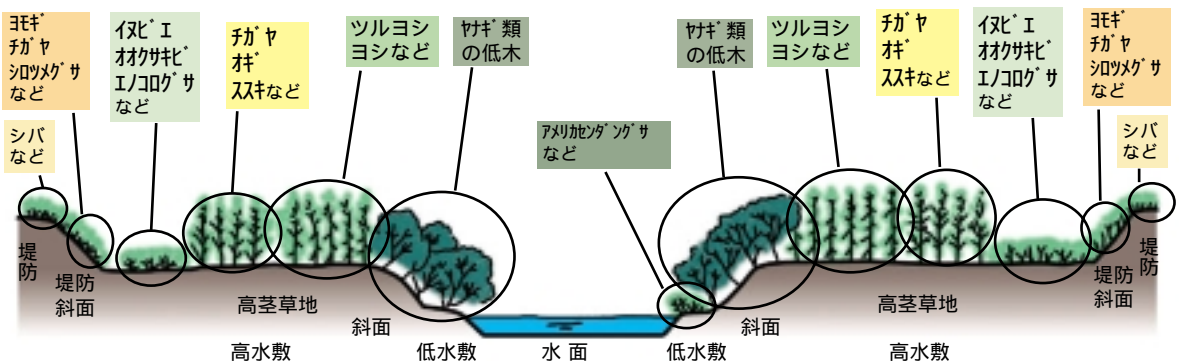


図 - 1 関川の植物群落の横断分布模式図

関川の水ぎわは、図-1のような植物や植物群落しよくぶつぐんらくが長年にわたってつくり、変化があまり見られませんが、

関川の植物や植物群落しよくぶつぐんらくの特徴を見るために適した場所は、表 - 1 に示した4つの区域です。

表 - 1 関川の特徴的な4つの区域

区 域	見られる植物群落 <small>しよくぶつぐんらく</small>	主な植物種
保倉川(左岸) 0.1km ~ 0.4km	ヤナギ低木林、オギ草地 ニセアカシア低木林、 ヨシ草地、ツルヨシ草地 ヨモギ草地	加ヤナギ [*] 、チヤナギ [*] 、ニセアカシア 林 [*] 、ツルヨシ、ノウルシ
関川 1.9km ~ 2.7km 付近右岸	ヤナギ低木林、ヨシ草地 チガヤ草地、ススキ草地 ヨモギ草地	加ヤナギ [*] 、チヤナギ [*] 、イコリヤナギ [*] ハノキ、ヨシ、チガヤ、ススキ、ノウルシ ヨモギ [*] 、オトコヨモギ [*]
関川 8.2km ~ 9.2km 付近左岸	ヤナギ低木林、ヨシ草地 ツルヨシ草地、オギ草地 チガヤ草地、ススキ草地	加ヤナギ [*] 、チヤナギ [*] 、シロヤナギ [*] ヨシ、ツルヨシ、ススキ、林 [*] 、チガヤ ガマ、サンカクイ
関川 9.7km ~ 10.0km 付近右岸	ヤナギ低木林、ヨシ草地 ニセアカシア低木林、 ツルヨシ草地、ススキ草地 チガヤ草地	加ヤナギ [*] 、チヤナギ [*] 、シロヤナギ [*] 、ヨシ ツルヨシ、ススキ、チガヤ、ケナシヤブデマリ

4つの区域の特徴は以下のとおりです。

- ・保倉川(左岸)の0.1km~0.4kmのところには、古城橋ふるしろばしから港橋みなとばしの間の湿性しつせいち地で、ヨシ草地が、よく見られる区域です。春にはヨシの草丈たけも低く、近年減少しているノウルシが、よく生えています。
- ・関川の1.9km~2.7kmあたりの右岸には、河原にヨシ草地がよく見られ、ヤナギ低木林、チガヤ草地が、図-1に示されているような状態で分布しているところす。
- ・関川の8.2km~9.2kmあたりの左岸には、河原にススキ草地、チガヤ草地、ツルヨシ草地、あるいはヨシ草地がよく見られ、また、ヤナギ低木林も見られる代表的な区域です。干潟状ひがたじょうの泥地どろちが水ぎわに現れることもあり、抽水植物群落ちゅうすいしよくぶつぐんらくであるガマ、サンカクイはも生えています。
- ・関川の9.7km~10.0kmあたりの右岸には、櫛池川くしいけがわが合流しているところで、わりと広い区域で、ヤナギ低木林、ニセアカシア林が藪やぶのようになっています。またケナシヤブデマリも見ることができます。